

歴史		
項目	観点	教科書名
		新しい社会 歴史(2・東書)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、多面的・多角的に考察する力を養うために、どのように配慮されているか。	・「チェック」や「トライ」、資料等において、歴史に関わる事象についての意味や意義、伝統と文化の特色などを問い、歴史に関わる事象について考察できるよう配慮されている。 ・各ページや「もっと歴史」のページにて、社会的事象等について調べまとめる技能を習得するため、「スキル・アップ」コーナーが設定しており、情報を収集したり、読み取って効果的にまとめたりする力を養えるような工夫が見られる。
2 内容の程度及び取扱いについて	○主体的・対話的で深い学びを実現するためにどのような工夫が見られるか。	・巻頭で、歴史上の出来事をイラストで掲載し、小学校からの歴史学習を想起しながら、日本の歴史の大きな流れを大観できるようにしている。 ・1時間の学習課題が大きく提示されていて、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるようになっている。 ・「みんなでチャレンジ」のコーナーを設けて、対話的な学習を促す配慮がされている。 ・単元末での時代の特色を捉える学習では、単元ごとにXチャート、ステップチャート、マトリックスの活用などの多様なまとめ方で構成されており、生徒の思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫が見られる。
3 配列・分量	○教材の配列、分量には、どのような特色があるか。	・各章の導入で、必ず小学校の学習の振り返りを生かして課題をつかむ「探究課題」を示し、単元の内容で探究課題を追究し、単元末で探究課題を解決するなど配列に特色が見られる。 ・各時代の分量がバランスよく取り上げられており、各時代の特色を大観して捉え、多面的・多角的に考察し表現できるような特色が見られる。
4 表記・体裁	○用語や資料、使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。	・「分野関連マーク」「教科関連マーク」を取り入れ、他分野・他教科との関わりを示している。 ・本文の下にページ数が青字で記入されており、関連事項の確認ができる。 ・世界遺産、国宝、重要文化財の表記が資料に示されている。 ・巻末の年表には、日本と外国の関連性を示したり、歴史の流れが理解できるポイントが記載されていたりする。 ・年表スケールが各ページに掲載しており、学習している時代や年代を確認しやすくなっている。 ・目次の前に国宝、重要文化財、世界遺産の写真を提示し、生徒の意欲を高めようしていたり、持続可能な社会の実現に向けての観点が掲載されていたりする。 ・AB版